
2018年9月 第1四半期 決算補足資料

リネットジャパングループ株式会社
東証マザーズ：3556



① 決算ハイライト

決算ハイライト

- ◆ 今期計画は、上期のネットリサイクル事業「みんなのメダルプロジェクト」での積極的なプロモーション展開により、営業利益は連結で中間期△1.5億円、通期1.6億円として計画。
- ◆ これに対し、第1四半期（10～12月）は、連結売上高で前年117.3%と二桁成長するも、上述のプロモーション費用を投下したことなどにより、営業利益は連結で△75百万円となった。但し、赤字幅は期初計画より少なく進捗。
- ◆ 特に、第1四半期はカンボジア・ファイナンス事業が好調となり、売上高89百万円（前年比1,834%）と大きく伸張。
また、本日発表の通り、ファイナンス事業強化のため、現地マイクロファイナンス機関の買収契約を締結。カンボジア全土に21支店、職員200名、顧客口座24,000の体制に。

損益計算書概要（連結）

- ◆ 売上高は3事業とも着実に伸長し、前年比117.3%の売上高9.6億円。
- ◆ 営業減益となるも、2Q以降の売上獲得に向けたプロモーション費用の投下が主要因。

単位：百万円	2017年9月期 第1四半期 金額（売上比）	2018年9月期 第1四半期 金額（売上比）	前年 同期比	セグメント別
売上高	825 (100.0%)	968 (100.0%)	117.3%	ネットリユース事業 844百万円 ネットリサイクル事業 34百万円 カンボジアファイナンス事業 89百万円
売上総利益	563 (68.3%)	625 (64.6%)	111.0%	
販売費及び 一般管理費	557 (67.5%)	701 (72.4%)	125.8%	
営業利益	5 (0.7%)	△75 -	-	ネットリユース事業 △41百万円 ネットリサイクル事業 △40百万円 カンボジアファイナンス事業 5百万円
経常利益	3 (0.4%)	△75 -	-	
親会社株主に帰属 する当期純利益	2 (0.4%)	△76 -	-	

事業別サマリー

- ◆ ネットリユース事業（※国内のみ）は、売上高8.4億円（前年比106.3%）と伸張。粗利率は改善するも、アマゾン手数料、本社移転費用等が嵩み1Qは減益。
- ◆ ネットリサイクル事業は、都市鉱山メダルプロジェクトの広がりを背景に、広告宣伝費を積極投下。第2四半期以降での業績拡大を計画。
- ◆ カンボジア・ファイナンス事業は、売上高89百万円（前年比1,834%）と大きく伸張し黒字化。成長事業として、開示セグメントも、これまでのリユース事業セグメントに包含する形から、今後あらたなセグメントに。

単位:百万円	売上高			営業利益	
	2017年9月期 第1四半期	2018年9月期 第1四半期	前年同期比	2017年9月期 第1四半期	2018年9月期 第1四半期
ネットリユース事業 (国内のみ)	794	844	106.3%	13	△41
ネットリサイクル事業	25	34	134.4%	△7	△40
カンボジア・ファイナンス事業	4	89	1834.0%	0	5
連結計	825	968	117.3%	5	△75

※) 本1Q決算の短信等開示書類においては、ネットリユース事業の中に海外リユースとしてカンボジア事業が含まれております。現地子会社設立後の2Q以降は3セグメントでの報告を予定しています。

貸借対照表概要（連結）

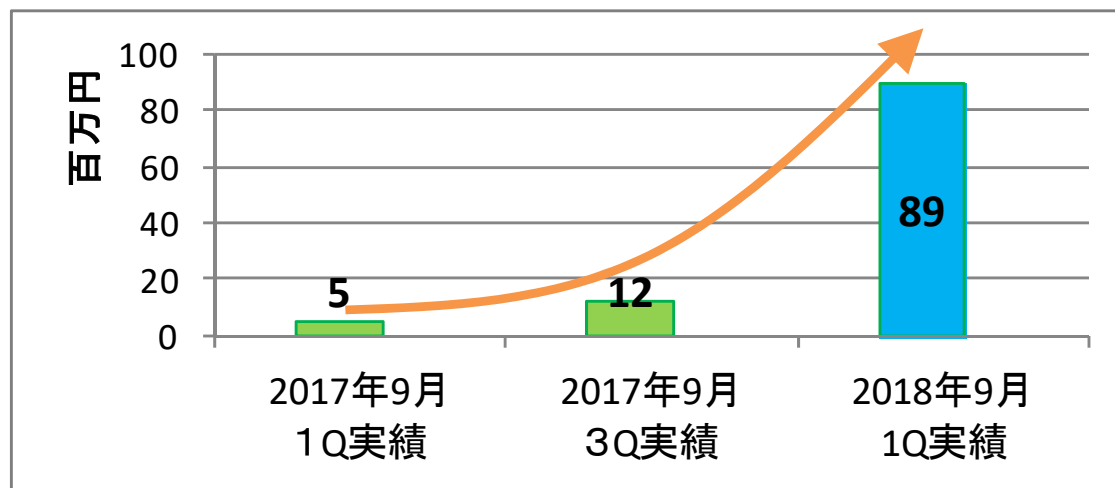
- ◆ 前年の株式上場による新株発行及び長期借入金の資金調達により、投資余力を確保。今後、海外を中心としたM&A戦略を実行。
- ◆ 自己資本比率33.7%、流動比率293.4%となり、財政状況は引き続き安定。

単位:百万円	2017年9月期 第1四半期	2018年9月期 第1四半期	増減	増減要因
流動資産	2,045	1,950	△94	現金預金△261百万円、売掛金+71百万円、商品+11百万円、前払費用+59百万円、仮払金+22百万円
固定資産	371	363	△8	有形固定資産△6百万円、無形固定資産△3百万円
繰延資産	6	5	△1	
資産合計	2,423	2,320	△103	
流動負債	613	664	+51	未払金+66百万円、1年内返済長期借入金△12百万円
固定負債	949	870	△79	長期借入金△76百万円、長期リース債務△2百万円
負債合計	1,563	1,535	△28	
純資産合計	860	784	△75	当期純利益△76百万円
負債・純資産合計	2,423	2,320	△103	

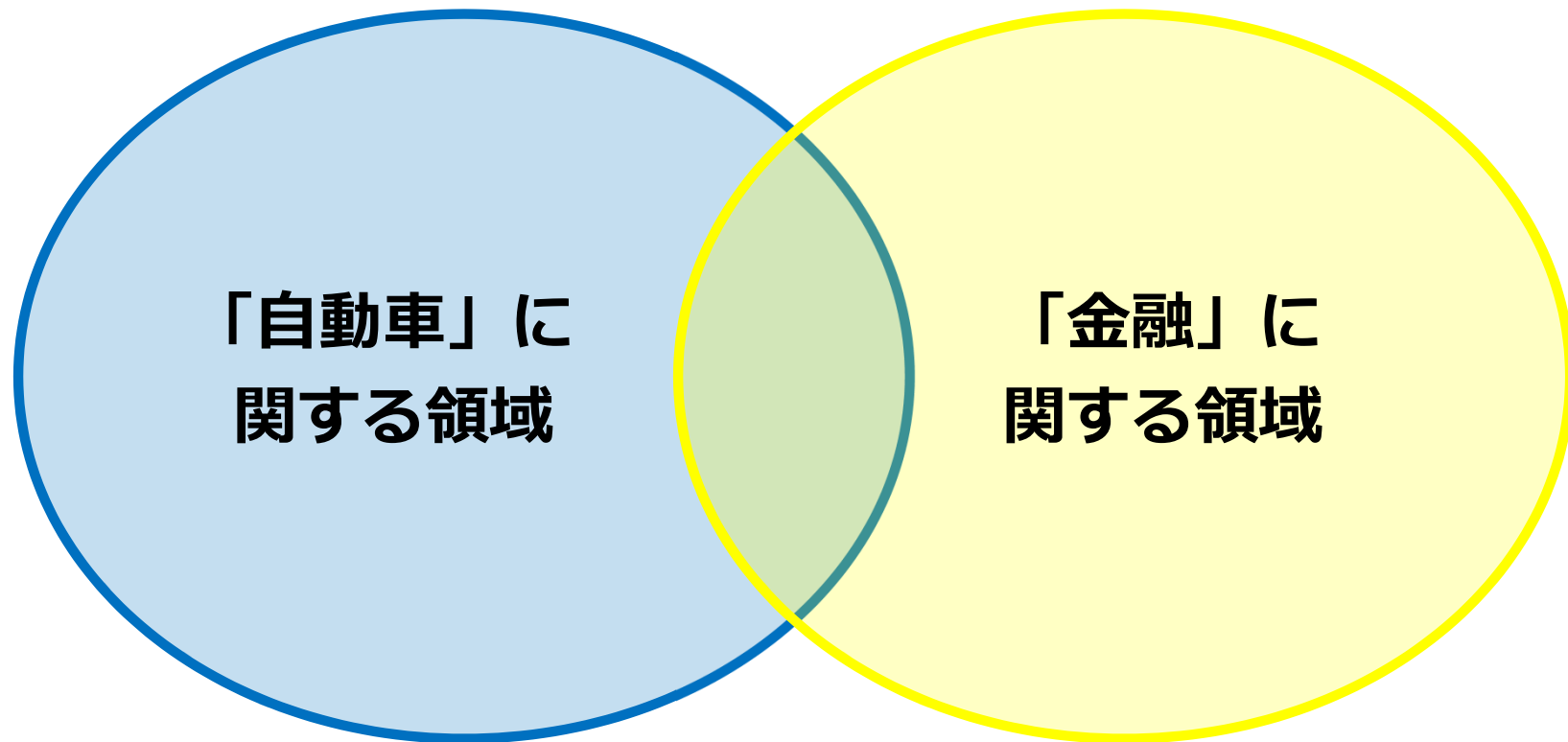
② カンボジア・ファイナンス事業及び 海外M&Aについて

- ◆ 前期に実施した車両へのIoT端末設置とトライアル販売の好調を受け、今期は本格的に展開。第1四半期のみで売上高89百万円を計上し、通期予算ペースを上回る勢いで更なる成長を目指す。

単位: 百万円	2017年9月 1Q実績	2017年9月 3Q実績	2018年9月 1Q実績
売上高	5	12	89
前年同期比	-	-	1834%
通期予算進捗率	-	-	37%



- ◆ **カンボジア経済の発展に比例し成長が期待でき、且つ収益性の高い「自動車」と「金融」の2つの領域で戦略的に事業を展開。**



- ◆ **カンボジアにおける金融事業 第1弾として発表した「自動車などのリース事業への参入およびSBI HDとの合併会社設立」**については、カンボジア中央銀行などとの調整に時間を要しており、現在、2018年9月の事業開始を目標に準備を進めている。



- ◆ **カンボジアにおける金融事業 第2弾として、カンボジアを代表するソーシャル・マイクロファイナンス機関である「Chamroeun Microfinance Plc. (チャムロン社)」の株式を、グラミン銀行系ファンド等から取得。**
- ◆ **持分90%の筆頭株主となる株式譲渡契約を締結し、2018年8月までに買収手続き完了を予定。**

※本買収が成立した場合、連結業績に与える影響については現在精査中。公表すべき事項が生じた場合には速やかに公表の予定。



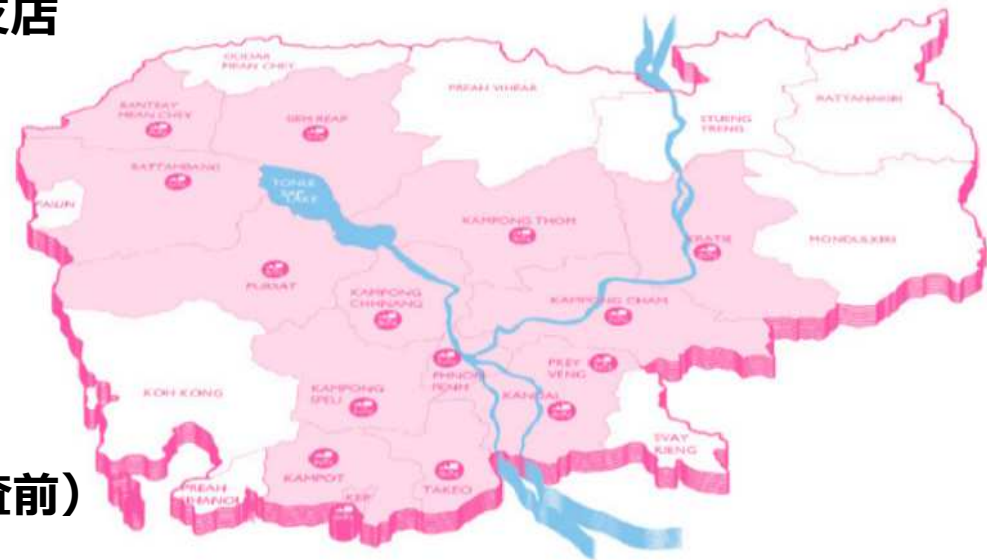
◆ チャムロン社 会社概要

2006年からカンボジアで活動するマイクロファイナンス機関。
 カンボジア全土に21支店と職員約200名、顧客口座約24,000を有し、
 不良債権比率も業界標準以下の優良な審査体制を有す。

[支店数]	カンボジア全土21支店
[職員数]	207名
[借り手数]	24,088名
[総資産]	約12.1百万ドル
[貸付総額]	約10.1百万ドル

(2017年12月期 監査前)

主要店舗ネットワーク



融資、マイクロ保険に加え、社会的サービス（ソーラー発電システムや衛生的な水へのアクセス等）も提供。

◆ Developing Loan

グラミン銀行型の5人組グループを組成し、グループ単位に貸付を行うローン

◆ Social Emergency Loan

火災や洪水・事故・病気などにあつた場合、その家族などに提供されるローン

◆ Wash Loan

水や衛生の向上のために、水フィルター・水タンク設置のため提供されるローン

◆ Clean Energy Loan

ソーラー発電システムや省エネコンロなどの利用のために提供されるローン

- ◆ 今後のカンボジア以外のASEAN展開を視野に、既存株主であり、マイクロファイナンスで世界的に評価が高いグラミン銀行系のグラミン・クレディアグリコル社とアドバイザー契約を締結。

ノウハウの取得および幅広い海外ネットワークを活用。

Networks and Partnership

FINANCIAL PARTNERS



responsAbility



- ◆ 2017年11月15日に発表した 車両販売及び自動車整備関連事業を展開するための100%現地子会社「ReNet Japan Cambodia」の登記が完了。ファイナンス事業との連動を図ることで、営業的シナジーの創出と競争力強化を目指す。

社名	: ReNet Japan (Cambodia) Co.,Ltd.
代表者	: Chairman, 黒田 武志
資本金	: 1百万米ドル
持分比率	: 当社 100%
事業内容	: カンボジアにおける自動車・農業機械などの仕入・販売

-
- ◆ なお、2017年6月に発表したモビリティIoT企業のGMS社との提携については、技術的検証を継続中。提携については、検証を踏まえ判断。
-

- ◆ **カンボジア経済の発展に比例し成長が期待でき、且つ収益性の高い「自動車」と「金融」の2つの領域で戦略的に事業を展開。**

